

つくった作品を実際に使ってみよう！

美術教育講座・原田義明

1. 授業の目的・概要

本授業は、学校教育実践コース(美術教育専修)及び造形芸術コースの1回生を主な対象とした授業(必修)であり、前学期に開講されている。本年度の受講生数は24名(学校教育1回生1名、美術教育専修2回生5名、造形芸術コース1回生11名、3回生2名、4回生5名)である。このうち、継続して受講した者は22名であった。

本授業では、工芸に関連した造形素材(金属、ガラス等)による作品制作を行い、工芸やプロダクトデザインにおけるデザイン要素について学習し、制作を通して素材や道具に対する基礎的な知識や技法を身に付けることを目的としている。

授業の到達目標及び関連するDPは以下の通りである。

〈到達目標〉

- (1) 工芸の造形素材、技法及び道具についての基本的な知識を身に付けることができる。
- (2) 与えられた課題内容を理解し、それを作品制作に生かすことができる。
- (3) 素材の特性や技法が各自の制作意図に反映され、作品化できる。

〈ディプロマ・ポリシー〉

造形芸術全般にわたる確かな知識と、得意とする分野における高度な専門知識を修得している。

2. 授業内容

本授業は、1回生対象の授業であり、受講生の多くが工芸に関する知識や制作歴が少ないことを考慮し、各素材ごとに課題を設定した。また、各個人の制作進度に対応させて、全体指導と個人指導を繰り返しながら授業を進め、素材の特性を十分に生かした作品制作を目指した。

3. 今年度の取り組み内容

工芸は「用と美」を念頭に置き、手による表現の可能性を探る分野といえる。しかし、初心者ほど、ものづくりに手と思考が奪われ、制作者としての「つくる視点」が中心となり、「使う視点」が曖昧になることが多い。今年度は、学生が「つくる視点」と「使う視点」2つの視点をバランスよ

く保ち、つくり出されたものを生活の中で使うということを強く意識するための方策として、一部課題の中で「つくった作品を実際に使ってみよう」というレポート課題を課した。また、授業アンケートの質問項目にもこれに関連した質問項目を新たに設定して、このことについて問うた。

4. 授業改善のためのアンケート

授業最終日にアンケート調査を実施した。問14までは、5段階評価で行い①まったくそう思わない(良くない)②あまりそう思わない(あまり良くない)③どちらとも言えない(普通)④ややそう思う(良い)⑤強くそう思う(非常に良い)とした。なお、問11の回答は、はい①いいえ⑤で答えることとし、問15～17は記述式の設定とした。

回答者22名

5. アンケートの結果

【授業の内容に関する質問】

問1. 授業のテーマ・目的は授業展開の中で明確でしたか。

④7名 ⑤15名

問2. この授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか。

③5名 ④4名 ⑤13名

問3. この授業で、あなたのこの分野への興味・関心は向上しましたか。

②1名 ③2名 ④6名 ⑤13名

問4. この授業により、自分の考え方が培われたり、得るところがありましたか。

③1名 ④6名 ⑤15名

【授業方法に関する質問】

問5. 担当教員の話し方や説明はわかりやすかったですか。

②1名 ④5名 ⑤16名

問6. 担当教員の熱意。工夫は感じられましたか。

③1名 ④4名 ⑤17名

問7. 制作中のアドバイスの内容は適切でしたか。

③1名 ④3名 ⑤18名

問8. この授業では、教材や資料が工夫されてい

ましたか。

③ 1名 ④ 7名 ⑤ 14名

問9. この授業の中で質問や意見発表の機会が与えられ、教員はそれに適切に対応していましたか。

③ 1名 ④ 4名 ⑤ 17名

【受講生自身に関する質問】

問10. あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

② 1名 ④ 13名 ⑤ 8名

問11. この授業の受講に際し、シラバスを読みましたか。

① 8名 ⑤ 13名

【授業全体に関する質問】

問12. この授業のテーマ・目的は達成されましたか。

③ 7名 ④ 10名 ⑤ 5名

問13. この授業の課題を通して、制作者としての「つくる視点」だけでなく、使用者としての「使う視点」を意識するようになりましたか。

③ 2名 ④ 12名 ⑤ 8名

問14. この授業は、満足のいくものでしたか。

③ 4名 ④ 5名 ⑤ 13名

※以下、問15～17の設問は、誤字・脱字などを除き受講生の記述をそのまま転記する。

問15. 実習室の状態や学生数など受講環境について意見があれば記述して下さい。

○その日使う道具を毎回セッティングしてあって使いやすいです。

○冷房が寒い。

○今のままで充分良いと思います。ただ、少し冷房が寒いです。

○良かった。

○適切だった。

○丁度よかったと思う。

問16. この授業で良かったと思う点、印象に残った点を記述して下さい。

○自由に制作できた。

○なかなか使うことのない道具に触れることができたので、良い経験になったと思います。

○制作の際に仲間で意見を出しあって、客観的な意見も聞けて、より良い作品ができる所。

○全く同じ材料でも、制作者によって全く違うものが出来るから、本当に合評と鑑賞が楽しかった。

○身近な素材を使って作品をつくった点。

○先生も受講生も熱心だった。

○個々に対応してくれるので捗る。

○ガラス工芸・金属工芸はどちらも自分にとって初めての経験だったのですが、制作を通して、自分のアイデアをどうすれば表現できるかという点で、とても勉強になりました。

○自分が普段から使用できる物を作ることができ、とても楽しく作業ができた。また、先生も適切に対応してくださり、スムーズに制作が進められた。満足のいく作品ができたと思う。

○さまざまな技法をためすことができ、いろんな表現のしかたがありよかった。

○金属工芸でのアクセサリ制作が、普段使うアクセサリの見方がかわったのでよかった。

○自由に作ることができるのがよかった。他の作品を見る時間も大切であると感じた。

○一からデザインを考えて制作に入ること、作品に対しての愛着や工芸に対する見方を学べたと思う。

○使う視点に関してより考えて制作できるようになっていた点。特に一度考える機会があったため、次の制作では、その点について考えて制作できた点。

○様々な作品がくれたこと。そして、作品をつくるだけではなく、作る時にどんなことに気をつけていけばいいか学べたことが良かった。

○自分のやりたいことを自由に考えさせ、できるだけそれを実現させようとするところが良かった。積極的に取り組みやすかった。

○制作過程で他の人の意見を聞きながらできたのが良かった。

○2回目まで回を重ねるごとに技術も上がるし、前回とは違う視点で見れたのが良かったです。銀とピューター2種類作れるのも良かったと思います。

問17. この授業で良くなかった点、改善すべき点を記述して下さい。

○必要なことだけど説明が長くて1時間分も覚えていられない。

○はしおきは普段あまり使わないので「使う視点」が考えにくかった。

○差が出る。

6. まとめ

アンケートの結果から、多くの受講生がガラスや金属といった未経験の素材や技法に積極的に取り組んだことが伺える。「使う視点」を意識するようになったかの設問にも、9割の学生から肯定的な回答を得ることができた。また、レポートからも様々な発見や気づきが見て取れ、今年度の取り組み内容は概ね達成できたと考える。今後も授業方法や課題内容を精査し改善に努めたい。